

みんなの願いは窓口無料 おすすめ会ニュース 21-1号

2021年5月28日（金）

発行：福祉医療給付制度の改善をすすめる会

<http://www.medical-post.net/fukushi/>

（長野市高田中村276-8：長野県社保協内）

5/23 おすすめ会総会開催 (web32名参加) コロナ禍のもと、現物給付制度の拡充をめざして共同で奮闘しよう！

5月23日（日）、福祉医療給付の改善をすすめる会の年次総会がwebで開催され加盟団体などから37名が参加しました。前半、すすめる会会長の和田浩医師から「新型コロナと貧困と子どもの健康」と題して講演（2面）があり、後半年次総会が開かれました。

総会では20年度の活動報告と決算、21年度の方針と予算の提案を行いました。原事務局長が20年度の子どもの医療費の県内動向と全国情勢の到達点を報告し、コロナ禍で子どもの貧困がより深刻になるなか県による一層の制度の拡充と、全国レベルでは国による「子ども医療費無料制度」の創設が必要だと強調しました。また、20年1月にすすめる会が取り組んだ完全無料化実施自治体アンケートの調査結果を紹介し、自治体から完全無料制度が「早期の受診を促し」「重症化した虫歯を保有する児が減っている」「病気の重症化が抑えられている」などの回答が寄せられ、また受診件数は年ごとに減少傾向がみられると報告しました。

2021年度の活動方針では、①「全国の会」とともに国に対して子ども医療費無料制度の創設とペナルティの全廃を求め、地元国会議員への要請に取り組む。②県に対して、通院も中学卒業まで助成を拡大し、窓口負担の廃止と障がい者等への給付の拡大を求める。③市町村には自治体アンケートをもとに引き続き県水準を上回る制度の拡充を求めるなど、子どもの貧困解決に行政が真剣に取り組むよう自治体に要望することなどを提案し、21年度も共同で運動を進めるよう呼びかけました。

議案はすべて承認され、新年度の活動方針、決算・予算、新役員体制が確認されました（下表参照）閉会の挨拶を宮澤里恵副会長が行いました。総会には、日本共産党県会議員の両角友成氏から激励のあいさつをいただきました。



前半の講演を受けて、参加者から次のような感想が寄せられました。

□今日は「福祉医療給付制度の改善をすすめる会講演と総会」に参加させていただきまして、ありがとうございました。私は「長野の子ども白書」制作に関わらせていただいております、社会福祉士の曲淵紀子と申します。和田先生のすばらしい活動は存じておりましたが、コロナ禍でますます無料低額診療のニーズが高まっていることを改めて認識いたしました。今まで無料低額診療と無縁だった方が、職を失ったり収入が減ったりして医療費を支払えなくなった場合、当該制度を知らないということは大いにあり得ます。また、Helpを出すことにも慣れていなく、支援に抵抗を感じている方もいるかもしれません。ご紹介されていた和田先生の広報活動は大変意義のあることだと思います。

私は福祉を生業としていないのですが、長野県社会福祉士会の福祉活動委員会子ども家庭部会長をしておりますので、もっと発信していく必要があると反省いたしました。

改めまして、貴重な機会をありがとうございました。

<総会で選出された2021年度役員名簿> 1年間よろしくお祈りします。

会 長：和田 浩（民医連・健和会病院院長・小児科医師）

副 会 長：宮沢 裕夫（保険医協会・会長）、原 金二（県推協・副会長）、田淵 すみ子（難病連・事務局次長）、宮澤 里恵（新婦人県本部・事務局次長）、石川 徹（民医連・理事）

事務局 長：原 健（長野県社保協・事務局長）

事務局次長：竹田 憲子（県推協・事務局次長）、原 淳（保険医協会・事務局）

監 査：小布施 美佐（県医労連・執行委員）

<注* 下線の方が新任の役員>

2021 年度すすめる会総会 講演会 「新型コロナと貧困と子どもの健康」

講師：和田浩氏（健和会病院院長・小児科医師）

すすめる会会長の和田医師の講演内容（要旨）を紹介します。

1. 子どもの貧困率 13.5%をどう見るか

国の基礎調査によると 2012 年以降子どもの相対的貧困率は下がってきているようだが、私の実感とは全く食い違う。もっと酷くなっているのではないか。「子ども世帯の実質可処分所得の推移」（後藤道夫氏：極貧がつけられる社会と雇用）では年収 100 万未満の世帯で少しも改善していない。格差は拡大していると言える。



2. 貧困と子どもの健康

カナダの調査で見ると健康状態が悪い子どもの割合は低所得層で増える。長野県の 17 年調査でも困窮家庭では一般家庭より「健康状態が良くない」と答え、虫歯や肥満といった疾患は困窮家庭に多く見られる。「所得と学力」、「子への虐待」も貧困とかわわっているが、「貧困＝病弱・学力が低い」と決めつけてはいけぬ。貧困に対し適切な支援を行うことが学力を伸ばし虐待を無くす。そのための施策こそが必要だ。

3. コロナの子どもの健康への影響

コロナ禍のニュースや情報に影響を受け、つよい不安を抱える子、休校をきっかけに不登校や肥満になる子の事例がある。なかでも発達障害をもつ子や困窮家庭に心の問題をかかえる子どもたちがとても多くなっている。沖縄県の調査ではコロナ禍により低所得層ほど収入が減少している実態がある。さらに子どものうつ症状では中等度以上の症状は年齢が上がるほど多くなり、「死にたくなる」と答える比率も 24%ある。こうしたことから精神的に「しんどく」なっている子どもが多くなっていると見ている。コロナ禍は障がいの重い子の保護者に経済的な影響が大きい。OECD が「子どもがコロナ危機に苦しむリスクを最も高めるのは貧困である」と指摘しているように、もともと貧困は子どもの心身の健康に悪影響だが、コロナ禍は貧困家庭の子どもに問題が強く表れる可能性が高いだろう。

4. 生活保護をめぐる

安倍元首相も「ためらわず申請を」と言っているように保護をめぐる状況は変化している。扶養照会の見直しのネット署名には自治体職員からも賛同が寄せられ、扶養照会には「弊害の方が大きい」「壮大な無駄」「必要のない業務にはうんざり」といった指摘もある。飯田市でも扶養照会で親族の経済支援につながったのはゼロだ。長野県の補足率は全国 46 位と低く利用者は少数派だが、このコロナ禍で「コロナで困窮するなら生活保護は当然」というイメージを運動の側から作っていく必要がある。

5. 無料低額診療をめぐる

無料低額診療については県内で 6 病院・3 診療所が実施しているが、健和会病院では 3 月 17 日に記者会見で制度の利用を呼び掛けた。制度がまだ知られておらず困窮している人はもっているはずで、「広報を強化する必要」を痛感したからだ。この会見には多くのマスコミが駆け付け、2 つの TV 局が報道した。会見に対して当初医師会から制度への誤解もあったが、後に医師会長名で制度を知らせる「通知文書」で情報提供され、他院から「コロナ禍に一筋の光明を示していただいた」と感謝の言葉をいただいた。今後テレビやラジオ番組でも制度を紹介していく予定だ。制度は子どもの医療費助成とは異なるが、子どもは受診させるが自分は我慢している大人の皆さんにこの制度をぜひ利用してほしい。

6. 完全窓口無料の重要性がコロナで鮮明に

コロナ禍で完全窓口無料の重要性が鮮明になっている。国や県に要請を続けながら 500 円の負担金を 300 円に引き下げることや、無料化する自治体を増やしていくことが重要だ。今「コロナで困窮」することに心を痛めている人は多く幅広い共同を広げられる可能性は大きくなっている。それには事例とデータを発信する際の工夫も必要。ジェンダー平等や生活保護の扶養照会問題でも明らかのように、日本でも小さな声が広がり政治を動かす時代になってきた。私たちの正論が素直に受け入れられる条件は広がっている。

和田先生が「推薦図書」として紹介した 3 冊

□ 「格差時代の医療と社会的処方」

一病院の入り口に立てない人々を支える SDH（健康の社会的決定要因）の視点一 日本看護協会出版会
武田裕子編集

□ 「コロナ禍の東京を駆ける」一緊急事態宣言下の困窮者支援日記一 岩波書店 小林美穂子ほか

□ 「長野の子ども白書 2021」 長野の子ども白書編集会/編